



西横野小通信

学校教育目標 「学ぶ子」「助け合う子」「元気な子」

第8号

令和3年7月12日

発行責任者 半田 裕司

TEL 393-1127

安中地区 いじめ防止フォーラムに代表児童が参加しました ～オンラインで開催～

安中地区のいじめ防止フォーラムが市内の小学校・中学校・高等学校の各学校から代表児童生徒がオンラインで参加して7月9日に開催されました。「これからのネット社会をよりよく生きていくために、今、私たちにできること」というテーマで、各学校で話し合った意見を発表し合いました。

6年生3名（〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん、〇〇〇〇さん）が本校の代表として参加し、下記のような意見を堂々とした態度で、とても聞きやすく、わかりやすく発表することができ、大変立派でした。



西横野小学校では、「これからのネット社会をよりよく生きていくために、今、私たちにできることは何か」ということについて、6年生が、道徳の時間に、話し合いました。

まず、スマートフォンを使った文字のやり取りは、誤解が生じやすいということがわかりました。送り手が伝えたかったことが、いつも正確に伝わるとは限りません。受取手は、何の疑問も持たずに、送られてきた言葉を自分の思ったとおりに受け止めて、それが正しいのか、確かめようとしません。「なんか、変だな」と思ったとしても、会話をして誤解に気づくこともありませんでした。

メールをやり取りして、トラブルにならないようにするには、どうすべきだったのでしょうか。まずは、メールの送り手です。自分の打った文章が、かんちがいされないかどうか、送る前によく確認することが必要です。送り手は、受け取る側の立場を想像して、「この文章で、だいじょうぶかな」と、よく読み直してから送信ボタンを押すべきだと思います。つまり、「相手を思いやる気持ち」や「想像力」が、大事だと思います。

次に、メールの受取手です。友達からのメールで「おかしいな」と思ったら、「いじわるだ」とすぐに決めつけず、直接会って確かめる必要があると思います。また、「いじわるだ」と思ったことが、「悪口」になって、周りの人にどんどん伝わっていくと、仲間はずれなどが生じ、よくないので、うわさをうのみにしない方がよいと思います。

これからのネット社会をよりよく生きるために、今、私たちにできることは、なんでしょう。1つ目は、「言葉に気をつける」ということです。いつも相手の気持ちを考えて、言葉を送ったり、使ったりすることが大事だと思います。相手が傷つくような言葉は、どんな時も使わないようにしたいです。

2つ目は、ネットで見られるものをすぐに信じないで、本当のことなのかどうか、しっかり判断する力をつけることが大事だと思います。

3つ目は、人と人が直接会って、会話をすることが大事だと思います。会えば、お互いの表情もわかるので、「怒っている」とか「悲しんでいる」とか、相手の気持ちがよくわかります。

以上の3つを私たち小学生のうちから心がけていけば、これからのネット社会をよりよく生きていけると思います。

